



No. 112

人口の動き	
総人口	10,452人(-4)
男	5,151人(-8)
女	5,301人(-4)
世帯数	2,526戸(+6)
転入	13人(-12)
転出	11人(-26)

=7月末住民登録人口より=  
(カッコ内は前月末比)

発行／岐阜県川辺町 ■ 編集／川辺町役場企画室 ■ 印刷／中部印刷 KK



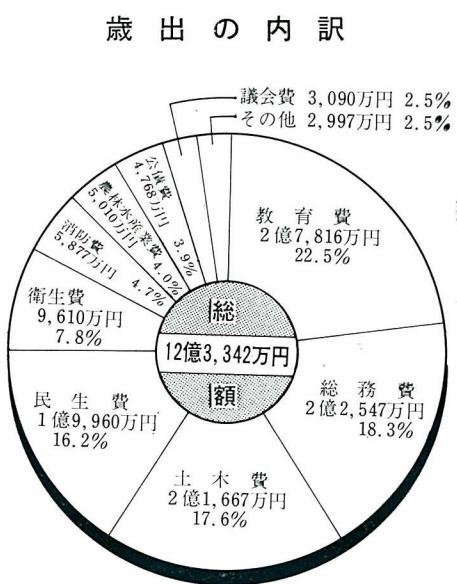
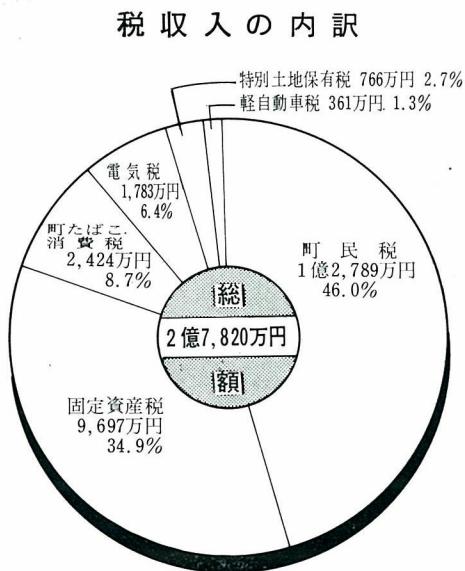
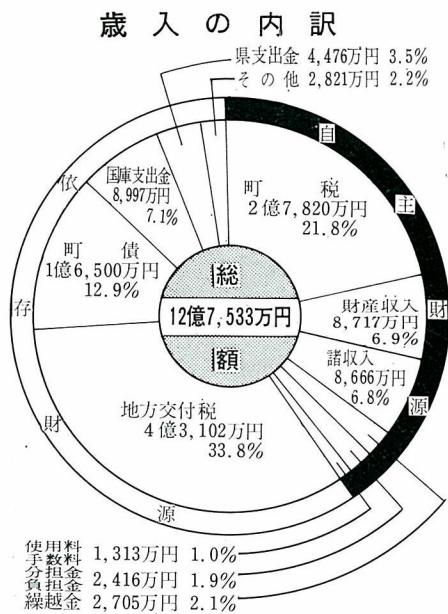
## うちこむ

熊沢 美代子さん

昨年秋亡くなつた娘朱美さんの遺志を継いで油絵を始めた熊沢さん。七彩会の仲間の指導で腕もめきめき上達。忙しい仕事の合間に縫つて制作に没頭している。中川辺在住。55歳。

### おもな内容

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| □ 財政事情の公表       | 2~3ページ |
| □ 町内の事故の状況      | 4ページ   |
| □ お年寄りに税の特典     | 5ページ   |
| □ 鹿塩に郷土史研究倶楽部誕生 | 6ページ   |
| □ 西柄井若人会が勤労奉仕   | 7ページ   |
| □ ぐるうぶ紹介        | 8ページ   |
| □ わたしたちの作品      | 9ページ   |
| □ 町史編さん室だより     | 10ページ  |



皆さんに町の財政状況を理解していただき、ご協力を願うため、毎年二回町財政のふところ具合を公表しています。今回は、五十二年度決算見込みと五十三年度予算執行状況（四一六月）をお知らせします。

## 般会計

### || 52年度決算（見込み） ||

前年度比一九・七%増)歳出が二億三千三百四十二万円(同一年三%増)でした。

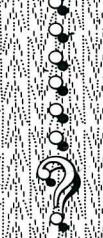
五十二年度の財政規模は、歳入が十二億七千五百三十三万円(対

歳入で最も大きなものは地方交付税で、四億三千百二万円でした。これは歳入総額の三三・八%に当たります。地方交付税を含めた依存財源は七億五千八百九十六万円で、五九・五%と歳入の大半を占めています。

### 一人一円の税負担

同年度の町税収入は二億七千八百二十万円で、歳入総額の二一・八%を占めています。町税のうち、町民税の収入は一億一千七百八十九万円で、町税全体の四六・

## 町のふどくする具合は



○%を占めています。これから私たちは一人当たりが負担した税金を計算すると、約一万二千二百円になります。また一世帯当たりの負担額は約五万一千円になります。

町民税の次に大きいのが固定資産税です。九千六百九十七万円で町税の三四・九%を占めています。

由として、統合小学校の用地購入費、工事費への支出などが挙げられます。

### △歳出△

### 大きい教育費の伸び

歳出のうちで一番大きいのは教育費で、二億七千八百十六万円を支出しました。これは歳出総額の二二・五%に当たります。前年度からの伸び率も一五九・四%と著しい伸びを見せていました。その理

特別会計は、国民健康保険会計の歳入が二億一千二百七十一万円(対前年度比一九・六%増)歳出が一億六千三百八十一万円(同一二・四%増)でした。

## 特別会計

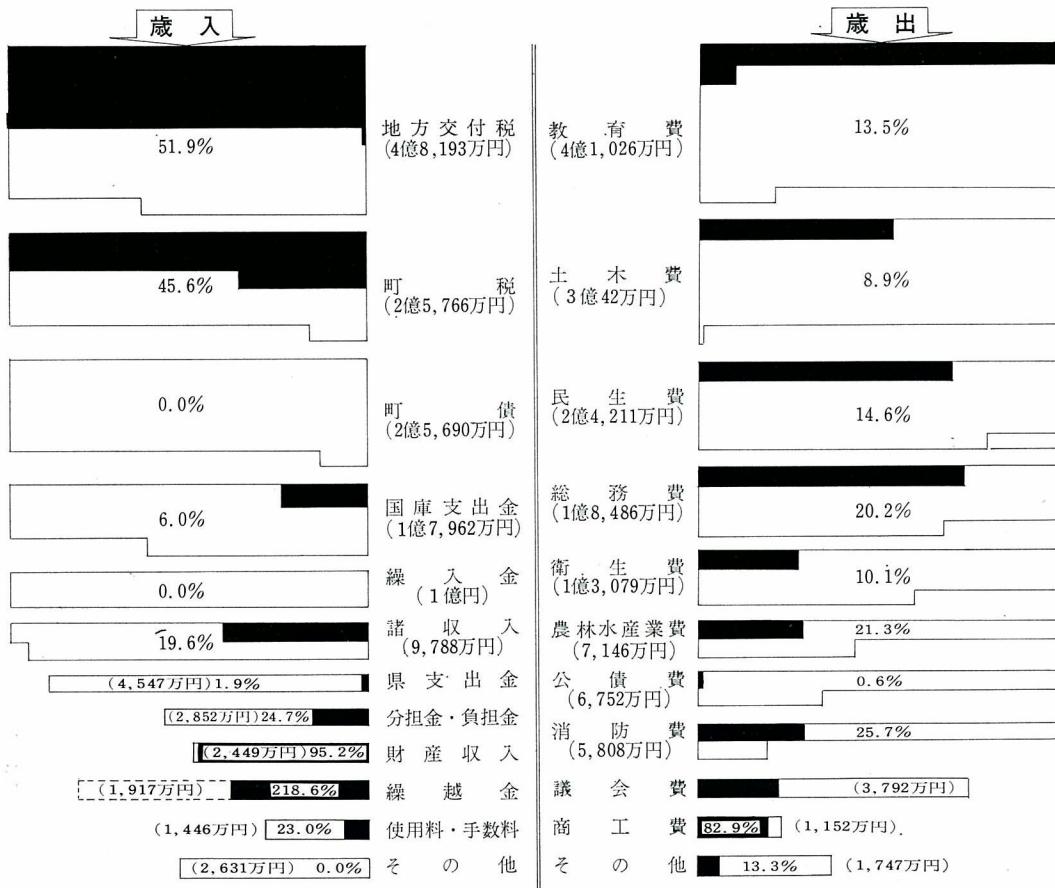
## — 昭和53年度(4~6月)予算執行状況 —

### 一般会計の状況

53年度の一般会計予算の総額は、当初 15億4,261万円でしたが、6月末に補正予算を組み 626万円を追加、予算総額を歳入歳出それぞれ 15億4,887万円としました。予算の執行状況は下図のようになりますが、歳入につ

いては4~6月までの間に4億9,061万円の収入があり、これは予算総額の31.7%に当たります。

一方、支出額は2億3,808万円で、全体の 15.4%が使われたことになります。

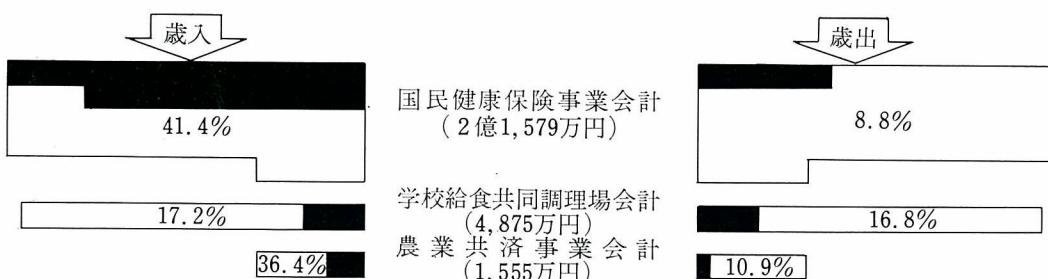


■ 4~6月執行済、( )内は6月末予算額、執行率 = (4~6月執行済額 / 6月末予算額) × 100

### 特別会計の状況

53年度4~6月までの特別会計の収支状況は、まず国保会計で 8,939万円の収入がありました。これは予算総額2億1,579万円の41.4%に当たります。また予算の8.8%に当たる 1,889万円を支出しました。

農業共済会計では、収入額 566万円に対し 169万円を支出。学校給食共同調理場会計では、837万円の収入があり、817万円を支出しました。



# 町内の事故は増加

## 多い幼児の飛び出し

ことしこそは町内での交通事故をなくそ——という願いもむなしく、新たな様相による事故が発生し、悲しい記録が更新されています。

そこで今回は、町内でのこととして上半期の交通事故発生状況をお知らせしますので、交通安全に対する家族の話し合いの参考にしてください。

死者は、全国で四千百三十五人

で、前年同期に比べ五十五人増。年間死者数が最高だった四十五年以来、年々減少していた死者数が再び増加する傾向を見せ始めています。

町内で発生した二十件の交通事故を分析したところ、道路別では△国道41号線上一件(前年比一件減)△県・町道上九件(同四件増)——となっており、県・町道などのいわゆる“生活道路”での事故が増えています。

町内で発生した車と車の事故原因は、狭く見通しの悪い交差点での出合い頭によるものが多くなっています。国道上では、六月に連続発生した大型トラック同士の居眠りによる正面衝突事故があり、死者一人、重体四人の被害がでています。

また車と歩行者の事故原因は、(同)△車×歩行者五件(前年と同じ)——で、特に歩行者のうちには、四人の幼児が含まれています。

町内での事故状況は△発生二〇件(前年比四件増)△死者二人(前年と同じ)△傷者四人(前年と同じ)——と、県下の状況とは反対に、増加の傾向を示しています。発生率も、国道41号線沿いの十四市町村中一番高く、前年より増加しているのも白川町と川辺町だけです。

(同)△車×歩行者五件(前年と同じ)——で、特に歩行者のうちには、四人の幼児が含まれています。

幼児の飛び出しが四件もあり、保護者の責任が問われる事故が発生しました。このほか、単独事故件数に上げられている事故は六件あります。が、若いドライバーが大半です。その原因もスピードの出し過ぎや飲酒運転で、民家や電柱に衝突したり、側溝などに転落しています。

以上の交通事故発生状況からわかるように、私たちが交通安全に気をつけねば悲しい記録は減少し、事故のない明るい町が築けるものだと思います。最後に「交通事故に遭わない、起こさない」という保障はだれにもない」ことを申します。

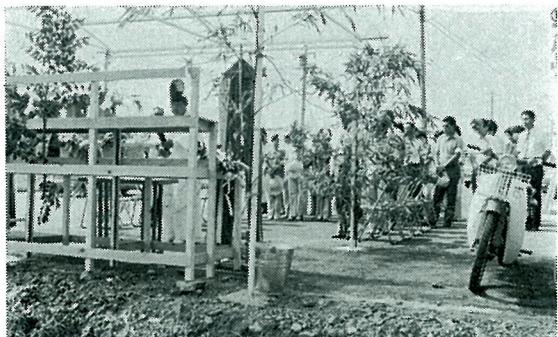
(文責 川辺派出所・伊藤)

## もう事故増えないで、 国道41号線で祈願祭

「もうこれ以上事故が増えないように」——と 8 月 5 日、国道41号線をジープで巡回して交通安全祈願祭が行われました=写真。

町には同国道が縦貫。直線コースで見通しがよいにもかかわらず毎年事故が多発し、47年の12人を最高にここ12年間で46人が死亡しています。死亡事故が多い原因是、同国道が飛驒から白川にかけてはカーブが多く、ドライバーも慎重運転をしますが、町に入ると道路が開け、解放感から気も緩むため、と加茂署ではみています。

この日の祈願祭には交安協役員、町長、加茂署長らが参列。石神地内の国道わきの広場に祭壇を設けて神官が交通安全祈願をしたあと、ジープに乗り込み、国道を巡回してお払いをしました。



## 気をつけて運転を。 ドライバーにコーヒーサービス

夏の交通事故防止運動期間中の7月22日と8月5日の両日、石神地内の国道41号線わきに交通指導所が開設されました。同国道は事故多発地帯。連日の暑さで事故の増加が心配されるところから指導所の開設が計画されました。

当日は交通安全対策協議会役員、交通安全協会川辺支部員、役場女子職員らがドライバーにアイスコーヒーをサービス。交通安全のパンフレットを手渡して安全運転を呼びかけました=写真。

なお、当日、ライン生コン株式会社社長横関道生さん(53)から「炎天下でご苦労さんです。これで汗をふいてください」と、交安協川辺支部員、町職員にタオル百本の寄付がありました。





# 郷土の文化財究明へ

## 鹿塩に研究俱楽部結成

鹿塩に郷土史研究俱楽部（くらぶ）**井戸喜一**会長が結成され、このほど、同地区公民館で発会式が行われました。今後は同俱楽部独自の活動と並行して、町史編さん室の編さん業務にも協力していく予定です。

同俱楽部の結成は、生まれ育った郷土を大切にし、鹿塩独自の文化財の究明をすることがねらい。同地区の区長、組長、氏子らで構成されています。現在俱楽部員は九人と少数ですが、地区ぐるみに協力を呼びかけ、ゆくゆくは地区全体で文化財の保護をしていくこうと計画しています。

この日の発会式には、俱楽部員

のほか町史編さん室からも二人が出席。役員を決めたあと本年度の活動計画を話し合いました。当面同俱楽部では△同地区的歴史年表

## 「大嶋御用」の碑建立

同俱楽部では発会式に先立ち、同所・若井令一さん（玄宅の畑に「大嶋御用」の碑を建立しました。碑の建立は俱楽部の活動の第一弾。

同碑は江戸時代、旗本大嶋家の御用人だった若井伝兵衛の屋敷跡を示すものです。以前は町道南洞線沿いにありましたが、明治時代になくなり、以来そのままになっ

めに先立つて逝った吾娘（わがこ）のために、せめてもの供養にと、鹿塩の娘さんの親が、建立したものと伝えられていました。

## 170年前の悲恋今に 鹿塩の「肩組比翼地蔵」

春まだ浅い三月の初め、鹿塩地区の石仏調査中、地元の文化財保護委員井戸喜一氏より「肩組比翼地蔵」と名付けられた石

年（一八〇二）九月十三日没、女側には同年同月同日と刻まれている。今から一七六年前のことである。

これに類似した石仏は、一般的に信仰の対象として道祖神がある。その中に「双体の石仏」が見られるが、それには戒名が刻まれていない。

井戸氏の話に依ると、鹿塩と神坂の男女が、親の許さぬ恋に世を敢（はか）なんで心中を遂げた。成就しない恋のた



封建時代の悲恋を伝える肩組比翼地蔵＝鹿塩で

めに先立つて逝った吾娘（わがこ）のために、せめてもの供養にと、鹿塩の娘さんの親が、建立したものと伝えられていました。

農民は皆、食べる事にも事なき、全（すべて）て貧しかったであろうこの時代にも変わりないのが親の子供を想（おも）う心造り、保存して来たのか不思議でならない。

（注記）今回「川辺町短歌会」が、文学散歩を試み、そのコースの中の「肩組比翼地蔵」に大変感銘して、悲恋の二人に捧げる歌が多數広報「わたしたちの作品」（9面）で詠されました。この欄で紹介しました。

（町史編さん室 堀下博子）

の作成△重要史跡への標柱の建立△同地区の伝承の収集——の三点を重点に活動を進めることにしています。

**町職員の人事異動**  
（八月一日付で、次のとおり町職員の人事異動を行いました。  
(カッコ内は前職)

（企画室長）高井嘉治△土木課長（土地改良課長）林治男△企画室長（総務係長）高橋和彦△保育園長（社会教育主事兼教育係長）池田承徹△学校給食共同調理場長（保育園長）石井周重△企画係長（学校給食共同調理場長）加藤秀征△総務係長（総務課）桜井芳敏△土木庶務係長（会計室）村山将博△社会教育主事兼教育係長（土木庶務係長）桑畠康彦△総務課（税務課）桜井茂夫△税務課（水道課）加藤茂則△企画室（住民課）紅谷友則△住民課（企画室）兼岩康志△産業課（土木課）加藤由美子△土木課（企画室）長谷川敬子△会計室（産業課）橋本公代△教育委員（土木課長）矢田元雄

## 農業委員に

### 石井さんら

新しい農業委員が次の皆さんに決まりました。（敬称略）

石井稔（下飯田）若井伴美（鹿塩）井戸義勝（同）平岡和一（石神）山田義広（福島）佐伯幸信（下麻生）肥田光雄（比久見）加藤義夫（同）平岩光秀（中川辺）加藤森津久（同）福田雅良（同）山田耕作（西柄井）

井会  
若人  
柄西

## 遊具修理や草取り

### 「チビッコ広場をきれいに」

西柄井若人会(日下部和宏会長)

・五十六人の会員がこのほど、「気持ちよく使える」と大喜びです。

同地区禅原寺のチビッコ広場と山楠公園で、遊具修理などの勤労奉仕をしました。新品同様に生まれ変わった遊具を見て、子供たちも

集まって十年程前に出来た親ぼくグレープ一杯飲んだり話し合ったりするほか、これまでにも西柄井神社、禅原寺の清掃などの奉仕活動、ソフトボーリ大会など

のレクリエーション活動を率先して行い、地区の人たちに喜ばれています。

チビッコ広場と山楠公園での勤労奉仕もそんな活動の一つ。当

日は約五十人の会員が集まりました。サビツいたシーソー、滑り台などのペンキ塗り、草取り、木のせんてい、バレーコートへの砂入れなどの作業を行いました。同会はまた、子供会のキ



チビッコ広場で遊具の修理をする西柄井若人会員ら

た。同会はまた、子供会のキ

ヤンピ大会や盆踊り大会などへも参加「地域に密着した幅広い活動を続けていこう」と結束を誓い合っています。

### 会長に福田さん

高校生親の会が総会

町高校生親の会はこのほど、第一回の会合を開き、役員を選出したあと本

年度の活動方針を話し合いました。本年度は、高校生の健全育成を

より一層推進するため、各地区ごとの小集団でミニ集会を開き、高校生の望ましい姿について話し合

い、そのなかで問題点を掘り下げ地域ぐるみの住民運動を開拓する

### 故丹羽邦平氏に旭日章

#### 町発展の功績に対し

先ごろ亡くなられた丹羽邦平氏(元下麻生町長)(下麻生)にこのほど、勲六等単光旭日章が叙せられました。

同氏は昭和九年、下麻生町議会議員を振り出しに、同町長、川辺町参与、同助役などの公職を歴任されました。その間、町合併、下麻生中学校建設、同

けられました。

小学校改築、同公民館建設、町民プール建設、工場誘致、町営住宅建設など数々の功績を残されました。

柔道が4年連続優勝  
第22回郡体育大会

第二十二回郡体育大会がこのほど、白川町、東白川村の各会場で行われました。町からも各種目で代表が出場、柔道一般の部で四年連続優勝を果たしたほか、小学生の部でも優勝を飾りました。

佐伯滝雄(下吉田)福田文雄(下川辺)桑畑治平(上川辺)坪内直一(同)

### 県大会に5年連続出場

川辺イーグルス

新役員は次のとおり。(敬称略)

▽会長 福田雅良(中川辺) ▽

副会長 小森甲次(下麻生) 佐伯邦博(下吉田) ▽書記・会計 教育委員会事務局 ▽理事 三品勇(中川辺) 渡辺隆弘(同) 木村勇(同) 大谷正司(西柄井) 加藤敏雄(同) 田原文治(同) 鈴木奈津美(下川辺) 日下部信夫(同) 木下重信(同) 村瀬雅一(下麻生) 木下芳辰(同) 白村澄夫(上川辺) 石原正昭(同) 長谷川鋼二(同) 平岡俊彦(石神) 平岡久茂(同) 加藤信義(同) 横山磐根(比久見) 牧田富朗(同) 肥田正(同) 井戸喜男(鹿塩) 山田高尾(下飯田) 小森武久(福島)

日から県営第一球場で行われた野球加茂地区大会で、川辺小のスポーツ少年団「川辺イーグルス」が優勝。八月十三日から県営第一球場で行われた県大会に五年連続出場しました。

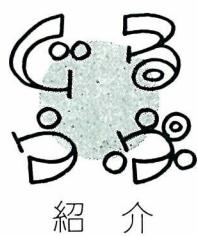
祭りばやし保存会員手作りの笛を使って練習に精を出す中・高校生ら=福島公民館で



「諏訪神社の祭りばやしを絶やすな」——と、福島地区に祭り笛の勉強会「郷土芸能講座」が開設されてから五年、講座から巣立った若者たちによって、毎年春に行われる祭りの灯は立派に受け継がれている。

同神社は、美濃加茂市下米町にある同市と川辺、八百津町の合社。毎年四月六、七日には数百年の伝統を持つ祭りがにぎやかに行われる。そして常にはやし笛がこの祭りを引き立ててきた。

しかし年とともに吹き手は少なくなるばかり。「伝統の灯を守り抜こう」と、四十九年、当時同地区の区長を努めていた山田光雄さん(60)が講座の開設を思い立った。若手の育成をねらいにおいたため、「講習生」も中・高校生だけに絞った。生徒の父兄に協力を呼びかけ



《18》

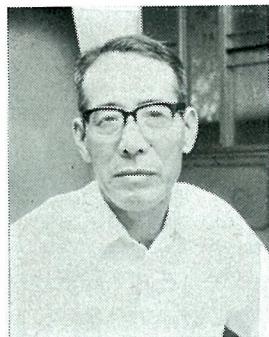
## ミ 祭りの灯守れ ミ 郷土芸能講座

たところ「祭りのためなら」と全員が二つ返事でオーケー。同年夏から福島公民館で練習を始め、以後春・夏休みの恒例行事に定着した。

練習は夜七時半—九時ごろまで、一週間続ける。指導には同神社祭りばやし保存会の小森一正さん(堀)、山田浜夫さん(西)が当たっている。講座を「卒業」した人たちも、後輩の指導に時々顔を出す。

「祭りばやしを後世に伝えるには、楽譜にするのが一番」と、近隣では例のない採譜作業にも取り組んだ。採譜は中部中の音楽教諭吉賀理恵子さん(三)に依頼、笛の練習を聞いてもらったり、テープに取つたりして、一年半がかりで「小雀(すずめ)囁子(ばやし)」「若松囁子(ばやし)」など五曲を採譜した。

「この講座で、中卒者は全員祭り笛が吹けるようにしてゆきたい」(山田光雄さん)と地区の人たちも期待している。



栗山数治さん

公設結婚相談所の  
相談員として活躍

## 買われた“信用度”

「ほかの相談員の皆さんのお手伝いをしている程度で…」と控めな言葉。

栗山さんも、太田さんらの熱心な誘いに「人のためになるのなら」と承諾した。

開設日以外にも、個人的に相談に訪れる人もある。「毎日毎日が相談日ですよ」と笑う。美濃加茂、可児などの結婚相談所や御嵩犬山などの相談員とも連絡を取り合いで「相談者に最も適した相手を」と飛び回る。

「一生を決める責任ある仕事ですから、いいかげんな気持ちではできません」ときっぱり。「相談者が多ければ、希望に合う人も見つけやすくなるので、どんどん相談に来て欲しい」と呼び掛けてい

る。中川辺在住。六十五歳。

栗山さんのほか、農協指導課長の大田持さんと、馬場和子さん、久見の三人。毎週月、金曜日の二回、午前中に同会館で相談に応じている。

ある程度の年齢と信用度などから「栗山さんなら」と白羽の矢が立った。最初は「口下手な私ではとても努力ません」と辞退した



## わたしたちの作品

杳き世に愛貫きて果てしとふ  
肩組み地蔵の満ち足りし顔

神田 繁子

○夏休み宵の花火を上げる子等  
顔赤々と喜びに満つ 渡辺 節夫

○ひとすじの夏の光のうつし出す 堀下 博子

## 健康のしおり

(1) 太らないこと

太ることにより、十分量の血液を送ったり、からだの働きをスムーズにさせるために負担がかかり血压が上がります。

標準体重を10%もオーバー

相聞の悲恋に終わる若き等の  
肩組み地蔵頬やさしかり

肥田 千里

○島原の海藍よりも青くして  
波おだやかに空果てもなし 丹羽 房代

○面上げて我們も行きたしめぐるめく  
太陽に向かい咲くひまわりの如 前島 一代

○農耕のすべて暦で決め行きぬ  
老いたる寡婦は昔のまゝに 前島 政平

○とどまらぬ季の流れは母と娘を  
かかわりもなく離して行かむ小島みき子

○梅雨明けて湿りし皮膚は陽に痛し  
働く声は汗に嗄れ行く 井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

○昇る心を胸に刻みて  
村瀬 雅一

○晩学の斗志かぎて緋の鯉の  
井戸 正一

○しらぬまに色うつりゆくあじさいの  
色濃くそめて暑さきびしき 佐伯久治郎

◇募集人員 男子一人  
◇応募資格 来年高校卒業見込  
みの人

◇締め切り 九月十六日  
◇試験日 十月八日  
◇試験会場 加茂高校

◇試験内容 筆記試験（作文、  
一般教養）面接試験、市町村統一  
採用試験による

おしらせ

町職員を募集

町では次の要領で職員を募集します。希望者は役場にある試験申込書に卒業見込み証明書、戸籍謄本を添えて総務課へ申し込んでください。

□ 訓練生を募集 □

□ 水道課が移転 □

役場水道課はこのほど、本  
ら山楠の上水道管理棟へ移転  
した。なお同課の窓口業務は  
庁二階の土木課で同課の職員  
つています。

雇用促進事業団・土岐総合高等職業訓練校では、次とのおり入校生および通信制訓練生を募集します。

△応募先 垂僕番号509-15  
1、土岐市泉町大字定林寺字園戸  
963-1、雇用促進事業団・土  
岐総合高等職業訓練校(電話05  
725) (4) 316111  
一月十五日  
△願書受付期間 十月一日~十一  
月三十日  
△試験日 十一月十七日  
△試験内容 筆記(国語、数学)

□心配ごと相談

心配ごと相談を九月六日に上米田支所、同二十日と十月四日に役場で、それぞれ午前九時—十二時まで行います。困りごと、悩みごとなどがある人は、気軽にお出かけください。

で、あらゆる分野で一つのことについて、情熱を傾けていた人たちを表紙に取り上げることになりました。「こんな人なら」という人がありましたから広報係へお知らせください。

左官、木工、時計修理など二十九科	△受講資格 実務経験があれば 学歴、年齢、性別不問	◇期間 一年	◇費用 △一級八千円△二級 六千円	◇特典 修了者は一、二級技能 検定試験の学科免除
------------------	---------------------------------	-----------	-------------------------	--------------------------------

校卒業予定者  
▽中学校・高校修

および面接試験

謹んでおくやみ申し上げます

# 能古山入会論争考(三)



— その 35 —

辺・中川辺の、四カ村連名にて行われた。宝永四年（一七〇七）十一月付の“山論返答訴訟書”には、その間の経緯が刻明に記されている。  
上川辺村の主張する一里四方に限つて、私共四カ村の入会とはすべて偽りである。既に五、六十年以前より、入会共有地が決定していく、この地域は上川辺村一村のみでなく、六カ村共有となつてきている。  
また五月三、四日の千人程の山内押し込みによる屋敷、田林（いばやし）、竹籜（やぶ）などへの狼籍（ろうぜき）、そして立木・五千本にも及ぶ無断伐採も虚偽であ

辺・鹿塩両村は、入会地に新林造林を行つたり、新たな畑地開発を他村の了解もなく進めてきた。このため入会草刈り場が減少し、主立会伐採することを申し入れたが、全く返事がなかつた。

同十三日、私共百姓がこの山に入つたところ、神坂口・水無瀬口に、上川辺村の百姓が多人数で待ち受け、柴（しば）草などを奪い乱暴な行為があつた。やむなくそれ以後は、私共百姓は五人、十人と徒党で能古山に入るようになつた。そして無断造林された新林の苗木などを伐（き）り払つた。

かし決して大木は伐り倒さず、  
これも偽りである。  
そして最後に、上川辺村とは  
十数年前にも、入会地の山留め  
問題で紛争し、その時は代官の  
来訪によつて三人が手錠の罪に  
なつたことなどを述べている。  
この返答書は、各村の領主名  
村役人まで詳細に記録されてい  
るが、当時の庄屋役は次のよう  
であつた。

福島	比久見	西柄井	鹿塩	石神	上川辺	下麻生
井上	古田	小沢	中島	若井	山田	多田
将徳	奈々	千春	志穂	直幸	睦臣	好美
武好	二三男長女	正美	二女	二三年長男	釗朗	裕子
長男				了	長男	末広

おめでた  
おくやみ

(六月中の届け出)

(六月中の届は

行出

1